観光ボランティアガイドつるが　広報誌　第40号　　令和4年7月1日発行

ゆりかもめ
yurikamome

ゆりかもめ 第４０号に寄せて　　中池見人と自然のふれあいの里　館長　中村　令二

観光ボランティアガイドつるがの皆様には、２０２４年春の北陸新幹線敦賀開業に向け、お忙しい日々をお過ごしと存じます。

私は、中池見に居て、天筒山を経て金崎宮に向かうコースが、歴史と自然を楽しめる観光トレイルと考えておりますので、敦賀へ訪れたお客様に是非お勧めいただきたいと思います。

中池見湿地は、２００１年１２月に環境省の「日本の重要湿地５００」に選定され、国際的に重要な湿地であるとして、２０１２年７月に「ラムサール条約湿地」の登録を受け、今年で１０周年を迎えることができました。

この湿地は、三方を囲まれた谷に断層運動が起き、袋状埋積谷が形成され、その後１０万年の時を経て厚さ４０ｍもの泥炭が堆積し、気候や環境の変化を重ねた学術的評価の高い湿地が形成されました。ここには、約３０００種類の動植物が生息し、６０種以上の絶滅危惧類が含まれています。また、国内屈指のトンボの生息地として７０種以上が確認されています。

これからも訪れた人達が、安心して楽しく自然を満喫していただけるように、このすばらしい自然を守ってまいりますので、皆様のお力添えを賜りますようにお願い申し上げます。

ごあいさつ　　中池見ねっと　藤野 勇馬　さん

はじめまして。中池見ねっとの藤野です。

私たち中池見ねっとは、中池見湿地での水田の維持や生態系の保全に取り組んでいるほか、観察会や学校での出前授業などを行っています。

今年からは新たに、福井県内で唯一、中池見だけにわずかに残された希少な水草「トチカガミ」を守り増やすためのプロジェクトが始動。まずはトチカガミが増えられる環境を取り戻すため「ザリガニマジで獲る！チーム」が立ち上がり、毎週土曜日に活動を行っています。活動の主なメンバーは市民ボランティアの皆さん。将来を担う子どもたちにも協力してもらっています。

中池見湿地は今年でラムサール条約（重要な湿地を守るための国際条約）に登録されて10年目の節目の年。

これから先も中池見湿地が市民の皆さんに愛され、地域の宝として受け継がれていくことも期待しています。

ザリガニマジで獲る！チーム

希少な水草「トチカガミ」

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

西福寺令和の大修復事業連携　「西福寺文書の世界」：県内でも有数の文化財の宝庫として知られる西福寺は、今年度より大規模な大殿(御影堂)の修復工事に入ります。これに合わせて修復事業の概要が紹介され、福井県指定文化財である西福寺古文書を通した敦賀の歴史を探る展示がなされます。

前期展　6月15日(水)～7月12日(火)　こけら経と西福寺文書
後期展　7月13日(水)～8月 7日(日)　西福寺文書が伝える人々

☆福井県立歴史博物館

特別展　「ふくいの御乗物」：移動手段として使用された上級の駕籠である「乗物（のりもの）」。実は、福井県には今も多く伝えられていることをご存じですか。福井県全域から、お姫様の乗物、お殿様の乗物、藩医の乗物、お寺の乗物など様々な乗物が紹介されます。「乗物」という文化財で、“地味にすごい、福井”の魅力を発信。
7月23日（土）～8月31日（水）

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス（敦賀観光案内サイト漫遊敦賀）からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167
FAX　0770－22－8197
https://www.turuga.org

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが　TEL　0770－21－0056
敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167

編集後記

中池見湿地は、昔懐かしい日本の原風景のような場所です。友人の子ども達は、小さい頃、晴れたら中池見湿地に行って、田植えなどのイベントに参加して泥だらけになって遊んでいたと。子供って、泥だらけになったり、土や水に親しんだり、自然が本当に好きなんだと思います。雨になれば、原子力センターあっとほうむに行って、色々とゲームをしながら勉強にもなっていたとも言っていました。

晴耕雨読の世界です、敦賀では、身近に安全に泥だらけになれる場所があり、遊びながら学べる場所もあります。それぞれの場所にはサポートしてくれるスタッフ、メンバーが居て子供達の安全にも気をつかってくれます。大人達に囲まれて、いっしょに作業したような思い出は、宝物になるように思います。その子たちが次の世代に引き継いでくれるように期待します。

中池見湿地では、外来種のザリガニを捕る活動も行っています、ご家族で出かけてみませんか。笙ノ川の源流、池河内湿原も静かで爽やかな場所です。（将）

発行者：観光ボランティアガイドつるが　　連絡先：〒914-0079 福井県敦賀市港町1-25 敦賀鉄道資料館　TEL・FAX 0770-21-0056

観光スポット紹介

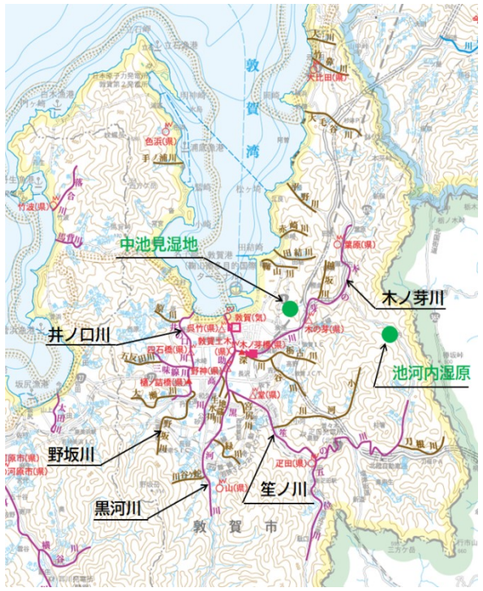
敦賀のみどころ ③ 自然 中池見湿地

敦賀は、周囲三方を山地に囲まれた典型的な扇状地、三角州地形で、笙ノ川、黒河川、木ノ芽川、井ノ口川等による扇状地と河口部における三角州、潟湖跡、敦賀湾に接する砂浜が平野を形成しています。周りの山々には、敦賀を代表する野坂山を始め岩籠山、西方ヶ岳等があり、周囲の山渓から河川が敦賀湾に流れ込んでいます。河川の源流には湿地や湿原もあり、敦賀は身近なところに自然が溢れています。今回は、中池見湿地を紹介します。

中池見湿地は、敦賀の市街地の東部に位置し駅から約2キロと近く、周りを天筒山、中山、深山の三つの小高い山に囲まれた広さ25ｈａのこじんまりした湿地である。かつては樹齢二千年年を超えるスギの巨木が生い茂る沼地であったが、江戸時代の新田開発によって水田となり、ほぼ全域で水田耕作が行われて来た。１９７０年代に入り農業の機械化が進んだが、軟弱地盤で深田と呼ばれる中池見には大きな機械を入れられず、さらに減反政策が追い打ちをかけ、次第に水田は耕作放棄されていった。現在は、中池見ネットのメンバーが市民ボランティアの参加を得て、小規模に稲作を行っている。

約10万年以上前、天筒山から東に向けて谷川が流れていたが、断層運動によってほぼ南北に走る活断層の東側ブロックが隆起して、その流れはせき止められ水が溜まって池になり湿地ができたと言われている。このような地形を袋状埋積谷（元の谷地形が厚い堆積物によって埋められたもの）と呼び、中池見湿地は山に囲まれた海抜47ｍの谷が周辺からの堆積物で埋められ形成された地形で、厚さ40ｍを超す泥炭層の堆積があり、環境変化の痕跡が保存埋設されていることも注目されている。

中池見湿地には、福井県内ではここでしか自生が確認されていないデンジソウを始め、ヤナギヌカボやミズトラノオなどの水生植物、ハッチョウトンボをはじめ約７０種に及ぶトンボなど、多数の希少な動植物（約３０００種うち絶滅危惧種が６０種以上）が生息している。



爽やかな風の吹き抜ける中池見湿地

中池見湿地は、野や水辺に四季折々の花が咲き野鳥の声とともに生き物の気配が溢れ、小川にはメダカやゲンゴロウ、夏にはホタルが飛び交い、なつかしさの残る身近な自然の景色が体感できる場所で、生物多様性を維持している湿地として、２０１２年（平成24年）７月３日、ラムサール条約に登録された。

ラムサール条約は、１９７１年２月にイランのラムサールという都市で開催された国際会議で採択された湿地に関する条約で、正式な名称は、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」である。

日本は１９８０年にラムサール条約に加入し、釧路湿原が日本で最初のラムサール条約湿地として登録されている。現在、世界で１７２ヶ国が加入し、２４３９ヶ所の湿地が登録され、日本でも53ヶ所の湿地が登録されている。

県内では、平成17年に三方五湖が、お隣の琵琶湖は平成5年に認定されている。

敦賀の『みどころ』教育旅行

「観光ボランティアガイドつるが」の4月から6月の活動を振り返ってみますと、ガイドの依頼は徐々に増えつつはあるものの、コロナ禍の前よりはずっと少ない状況です。その様な中でも、市内、県内を始め近県の小中高校などからの教育、研修目的のガイドの依頼が多くあります。次の世代を担う子ども達に敦賀の歴史、自然環境を学んでもらえることは、ガイドつるがのメンバーの大きな喜びです。

本誌前号でもお伝えしていますが、新型コロナの感染予防のため、遠足や修学旅行を県内や近県のスポットに変更する小中高校が多くあります。

本年、4月から6月中旬の期間でもムゼウム等のガイドの事前予約が有った学校が6件あり、約４００名の生徒さんに説明し、また、ガイドの予約はないものの、班行動で鉄道資料館を見学されたのは７つの学校から約３００名の生徒さんの来館がありました。

予約された学校からの生徒さんたちは事前に学習しており、ガイドからの説明に熱心にメモを取ったり、写真撮影などもしています。

特に、ムゼウムのガイドを予約されて来る皆さんは、平和研修も目的にしていて、事前に学習をしたうえで、メッセージカードを書いてこられますが、現地での説明を聞いてメッセージを追記する生徒さんも見かけます。

掲示されたメッセージを見ていると、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、「戦争のない世界を」、「平和が大切」などの言葉が多く見られます。

ガイドのメンバー打ち合わせや説明のねています。例えば、ムゼウムでの案内の中で、ナチスドイツのユダヤ人迫害について説明する中で１００年前の事を生徒さん達に身近な事例として分かってほしいと工夫し「皆さんは、アンネの日記を読んだことがありますか」と問いかけ本を掲げると、「あ、知ってる、読んだ」と反応を感じることが有ります。

生徒さん達には、実際に現地に来てみた感想や成果が残るように、更には笑顔で帰ってもらえるように、そして敦賀の事を好きになってもらえるようにと、ガイドのメンバーは日々研鑽を重ねています。

鉄道資料館の展示更新について

鉄道資料館では、日本海側で最初に鉄道が開通した街が敦賀である事を始め、敦賀に関わる鉄道の歴史等をパネルで表示するとともに、今年度、１階のモニターを大きなサイズに変更し、敦賀鉄道物語、よみがえる鉄路のキセキ、敦賀市ＰＲ映像の３本のビデオを、また、２階でも鉄道に関するビデオを放映しています。

館内に写真展示の場所を整備して、一昨年6月に日本遺産に認定された「海を越えた鉄道」を紹介しています。旧北陸線のトンネル群の写真や廃止された駅の跡などの写真も展示しています。

また、寄託のお申し出をいただいた「お召し列車」の模型も展示して皆さんのお越しをお待ちしています。

ガイドつるが定期総会の開催

４月23日夕、南公民館にて、コロナ感染対策のもと、ガイドつるが定期総会が開催されました。令和３年度の事業報告と会計報告、監査報告が行われ承認されました。その後、令和４年度の事業計画と予算計画について提案されました。

これまでも懸案になっている会員の増員に関して質問があり、出前講座なども通じて勧誘していくなど、会員みんなで取り組んでいきたい旨の回答がなされました。その後、４年度の組織、役員体制ついても承認されました。

会員の増加への取組みについては、継続して検討していくことになりました。

私共の活動に関心がございましたら、一度、鉄道資料館にお立ち寄りください。

「みなと・つるが・いまむかし」の改定

１９９９年、ガイドつるがの前身団体の一つ「ゆりかもめ」が、敦賀の主な観光スポットを取りまとめ、ガイド活動等のための冊子を作成しました。その２年後、敦賀に関係する人物等をまとめた冊子も作成し「つるが・みなと・いまむかし⑴、⑵」として活用してきました。作成から時間が経過する中で、観光スポットが見直され、カラーの写真や図なども必要等の意見があり、ガイドつるがに7名の改訂検討委員会を立ち上げ、取り組んできました。この２年間、ほぼ毎月会合を重ね、委員毎の分担項目を決め、関連する資料を集め、議論しながら、全体で23章、１６０ページの資料にまとめました。

市民の皆さんに手に取っていただき、敦賀の事について新たな発見があれば、また、敦賀に来られる観光客の皆さんへのおもてなし、ご案内の一助になれば、私どもガイドつるが一同の喜びです。